



さんびょう

三錨

ほんき げんき こんき
本気に 元気に 根気よく
よっかいちしりつとみすはらしょうがっこう
四日市市立富洲原小学校

がっこう
学校だより NO. 36

れいわ ねん がつ にち
令和 5年 2月 21日

●授業参観日、ありがとうございました。

がっこう じゅぎょうさんかん ひ
2月16日(木)、授業参観が行われました。今年度最後の授業参観ということ



たすう ほごしゃ き
で多数の保護者のみなさんに来ていただきました。今回は、感染対策をとったうえで、教室内で参観い
ただきました。「子どもの様子がよくわかりました。」「姿勢が悪いので気になりました。」「友だちの話を
しっかりと聞けるようになっていたので、びっくりしました。家で褒めたいと思います。」「手を挙げて
発表できるようになっていました。安心しました。」などの感想をいただきました。

あわせて、講堂で行っていた「校内作品展」もたくさんの方々にのぞいていただきました。今年
は、しゅうじ しょうしや きくひん ずこう きくひん
は、習字や書写の作品だけでなく、図工の作品があったので、興味深く見ていただけたのではないでし
ょうか。子どもたち同士も、「これ、わたしの班の班長さんのだよ。」「とっても上手だね。」「色がきれいに
塗ってあるね。」と喜んで見ていました。友だちや異学年の作品に触れることは、子どもたちにとっても、
たいへんまな おお らいねんど けいぞく
大変学び多いことです。来年度も継続していきます。

●自主防災隊のみなさんと一緒に(4年)

がっこう じゅぎょうさんかん ひ
1月31日(火)、富洲原地区自主防災隊のみなさんと4年生とで「合同研修会」が行われました。自主
防災隊の方たちから、「救助のための紐の結び方」「けが人や病人がいるとき、担架がない場合はどう
するのか」「大災害のとき、水はどのように確保するのか」「市民センターにある防災倉庫の中には何が
入っているのか」など、たくさんの方々に教えていただきました。“なるほど、毛布と竹竿があれば、担架
の代わりとして人を運べるんだね”“ここ(防火水栓)から水が出るんだね”“防災倉庫の中には、水を吸
うと膨らむ『土のう袋』があるんだ”など、たくさんの方々に学びました。

とみすはらしょうがっこう まいとし ねんせい ぼうさい まな さいがい
富洲原小学校では、毎年4年生が「防災」について学んでいます。災害はい
つ起こるかわかりません。人任せにするのではなく、子どもたちも自分たちに何
ができるかを考え、行動できる力をつけていきます。自主防災隊のみなさん、ありがとうございました。



●食育の学習をしています。

本校では、富田小学校から栄養教諭である松宮先生に来ていただき、すべての学年で食育の学習をしています。先日は、4年生で「地物」の学習をしました。スーパーマーケットに行くと、「地物一番」という看板を目にする場合があります。四日市市の給食にもたくさんの「地物(三重県産の食材)」が使われています。例えば2月16日(木)、17日(金)に出された給食には、米、豚肉、にんじん、たけのこ、ぶなしめじ、豆腐、白菜、わかめ、デコポン、エリンギ、めかぶ、小松菜、水耕ねぎ、大豆などが「地物」です。栄養たっぷりの地物がたくさん入った給食をおいしくいただいています。4年生の学習では、社会科の学習と合わせて、「それぞれの地物がどこでとれるのか」を学習していました。食に興味をもって、自分の身体も大切にできる子どもを育てていきます。ご家庭でも「地物発見!!」を伝えてあげてください。

●人権学習(6年) わたしにできること

2月10日(金)に三重県教育委員会より田中治貴さんに来ていただき、6年生と一緒に勉強しました。最初にさまざまな色のリボンを見せてもらいました。「オレンジリボン」は児童虐待の防止、「イエローリボン」は障がいのある人たちの自立と社会参加の推進、「レッドリボン」はエイズ撲滅…などです。子どもたちの中には知っている子もたくさんいました。



そのような話のなかで、田中さん自身が小学校のときに友だちにいじめられていた話、そして、反対に別の子をいじめる側にまわってしまっていた話をしてくださいました。そのときの思いを語ってくれました。そして、田中さん自身が今、さまざまないじめや差別をなくすために行動していることを聞きました。「一人ではなかなかできることは少ないかもしれないけど、なかまがいればできることもあるよ。」とも話されました。子どもたちは真剣に聞いていました。そのあと、「いじめとか、おかしいことがあったときに、先生や家族など、おとなに伝えることはできるかもしれない。」「ひとりでは言えないかもしれないけど、友だちに『あれ、おかしいよね。』というところからなら始められそう。」など、たくさんの子が自分の



思いを話しました。「知らないことが多いから、いろんなリボンのことを調べてみようかな。」「今日の話を家の人に聞いてもらおうと思う。」と話す子もいました。ひとりひとりが、「何だったら自分にできるのか」を考える時間となりました。